

かめ通

kameya
sangyo
tsu-shin
Vol.32

2026.8.21

発行
かめや産業株式会社
広島市西区井口
4-15-1
亀本みほ
082-277-130



図面を見ていただけなのに、の巻

みなさまこんにちは。まだまだ暑さの厳しい8月終盤、いかがお過ごしですか？

さて、当社のお客さまには木工の製造業の方が多く、時々、家具や建具などの図面をお預かりして、必要な金物(部品)を拾い出し、見積をさせていただくことがあります。これが、けっこう集中力のいる作業です。図面を見ながら、「この引出しには、このレール…」「この扉には、この丁番…」と、一つひとつ拾い出していきます。ところが。そんな作業も根を詰めてやっていると、だんだん集中力が途切れてきます。そして、別のことを考え始める自分が現れる。…こういう方、いらつしやいませんか？

家具の引出しなんかを見ると、「引出しと言えば……」と、脱線。会話の引出しの多い友人を思い浮かべ、「そういえば、こないだあんな話

をしていたなあ…」と、楽しかった会話まで思い出してしまう。…いかん、いかん！ 集中、集中！ また図面に戻ります。

でも今度は、ドアばかり描かれている建具表を見て、「この現場はいつぱいドアがあるなあ。フムフム。」そして、「そういえば、ドアと言えは…」とまた脱線。もう、こうなったら仕方ありません。

今日は脱線ついでに、ドアにまつわる小説をご紹介します。

短編小説の巨匠、星新一さんの『ノックの音が』でございます。

星新一さんといえば、風刺やブラックユーモアがちりばめられた作品で知られています。この本に収められている短編はすべて「ノックの音がした」という一文から始まります。たったそれだけなのに、「どこでー？ だれが？？」と、もう次の展開が気になってしまいます。さっそく「つかみはオーケー」ですね。

ノックをしたのは、見知らぬ女性だったり、強盗だったり…。さまざまな場面設定から始まる物語は、ハラハラ、ドキドキ。そして、最後には「そうきたかー！」と楽しませてくれます。短いお話がいくつも入っているの、集中力のない私でも飽きずに読めます。読書感想文の宿題にも良さそう！

…と、ここまで書いて気づきました。この夏も慌ただしく、充実しているはずなのに、「さて、かめ通を書こう！」となつた途端、ネタが思い浮かばない。どうでもいいことはよく覚えていたりして、人間の記憶は不思議です。

それでも！ 人に会い、いろんな経験をして私も、「引出しの多い人」になりたいものです。しかも、話題を滑らかに引き出せるスライドレール付きの引出しを…



考えてみれば、家具や建具って、空想の誘惑が多いんですよ。ドラえもんだって机の引出しから登場して、どこでもドアでお出かけするんだもの。

